決算報告 2014年度

つながる力。
大阪経済大学
OSAKA UNIVERSITY OF ECONOMICS

2015年5月の理事会で、2014年度の決算が承認されました。みなさんに納めていただいた学費、国や地方公共団体から交付されたお金などがどのように使われたのかお知らせいたします。

2015年8月発行
発行：学校法人 大阪経済大学 財務部経理課　〒533-8533　大阪市東淀川区大隅2－2－8

■ 2014年度の主な取り組み

●第7期教育研究用コンピュータ・ネットワークシステムの更新を実施しました。端末のログイン速度の向上を図り、PC実習室をE館からD館へ移設し、約1,600台の利用者端末を整備しました。

●E館改修工事、空調更新工事、東西校地外構インターロッキング更新などの整備を行いました。竣工から28年が経過したE館は、全館内装のリニューアルとなりました。これに併せて7階会議室の拡張、同窓会ホールを開放型ラウンジへ改修、1階談話室の意匠変更なども実施しました。

●本学学生が先生となり、近隣の小学生の学習サポート、学習指導を行う「だいけいだい教室」は2014年5月から年間開講となりました。教員志望の学生達を中心に取り組んでいるこの活動は、学生たちにとっても関心が高い一方で、地域貢献の役割も担っています。

●資格講座では、新たに中小企業診断士講座とTOEIC対策講座を追加して、年間69講座を開講し、延べ1,787名が受講しました。「資格取得者支援制度」（制度対象の講座を受講し、一定の条件をクリアした場合に受講料自己負担金の全額または一部を給付）の対象者は2013年度から104名増加して305名となりました。

●2015年度入試からインターネット出願の導入を行いました。24時間受付、クレジットカード利用可能など、利便性の向上につながり、受験生の約半数が利用するなど早速浸透しています。

■ 学校法人会計の仕組み

私立学校の会計は、文部科学省の「学校法人会計基準」という統一基準にしたがって処理されます。「真実性」「複式簿記」「明瞭性」「継続性」「総額表示」の５原則があります。その仕組みは企業会計と異なるところもあり、学校法人会計では、①資金収支計算書、②消費収支計算書、③貸借対照表という３つの財務諸表が重要とされています。

①資金収支計算書……学校法人の「家計簿」といえるもので、１年間の資金の流入・流出を記録しています。学校法人の全活動の状況を表したものです。

②消費収支計算書……民間企業の「損益計算書」に相当するものです。収入と支出の均衡状態を明らかにします。

③貸借対照表……年度末の財産の状況を記録したものです。民間企業の貸借対照表と基本的に同じで、左に資産、右に負債、基本金（民間企業の「資本金」に相当）、消費収支差額（消費収支計算書の翌年度繰越消費収入（支出）超過額と一致）を配置しています。

※「学校法人会計基準」は2015年度から一部改正されました。

■ 資金収入の内訳（※図表1以外、万円未満切り捨てで記載）

資金収入の合計額は168億3,474万円で、内訳は以下の通りです（図表1）。

（1）学生生徒等納付金収入（68億9,212万円）は、授業料などの収入です。昨年度の学生数（2014年5月1日現在）は、学部7,462名、大学院129名でした。

（2）手数料収入（4億978万円）は、大部分が入学検定料の収入です。入学志願者数は17,316人（編入・大学院を除く）で、前年度（16,899人）から417人増となりました。

（3）寄付金収入（2,504万円）は、「教育振興募金」によるものです。在学生の御父母、同窓生、企業などから寄付をいただきました。

（4）補助金収入（4億1,849万円）は、国・地方公共団体などからの補助金の収入です。

○私立大学等経常費補助金の額が、交付された全国568大学のなかで163位でした。前年度から4,753万円の増となりました。

（5）資産運用収入（2億211万円）は、預金・債券の受取利息や奨学基金運用収入及び施設利用料収入によるものです。

（6）資産売却収入（25億15万円）は、有価証券の売却および償還による収入です。

（7）事業収入（2,761万円）は、生涯学習講座などの受講料や、学生寮の家賃および企業からの受託研究などによる収入があります。

（8）雑収入（1億2,447万円）は、私立大学退職金財団からの交付金等です。

○科学研究費助成事業については、教員の研究課題25件に交付されました。

（9）前受金収入（18億6,182万円）は、翌年度の新入生が入学手続きで納めた学費、在学生が納めた翌年度の学費などのことです。

(10) その他の収入（3億2,338万円）は、主に2013年度未収入金の回収と貸付金回収分です。

(11) 資金収入調整勘定（18億36万円）は、年度間の調整項目です。

(12) 前年度繰越支払資金（58億5,009万円）は、2013年度から繰り越されたものです。

■ 資金支出の内訳（※図表1以外、万円未満切り捨てで記載）

資金支出の合計額は資金収入の合計額と同額で、内訳は以下の通りです（図表1）。

（1）人件費支出（39億9,076万円）は、教職員の給与・一時金などの合計額です。専任教員数は2014年5月1日時点で前年同日比より2名増えて149名（学長を除く）です。

（2）教育研究経費支出（17億7,783万円）は、教育研究活動のために支出した経費です。

（3）管理経費支出（5億4,765万円）は、教育研究活動以外で支出した経費です。学生募集のための経費などもここに含まれます。

（4）施設関係支出（4億2,980万円）は、建物や建物に附属する設備に係る支出です。E館改修や、摂津北校地グラウンド整備の費用などが発生しました。

（5）設備関係支出（4億6,617万円）は、教育研究用機器備品や図書などの購入費です。教育研究用システムリプレイスやE館改修に係る機器備品の購入などを行いました。

（6）資産運用支出（38億6,059万円）は、各引当特定資産への積立です。

（7）その他の支出（3億5,242万円）は、2013年度末に未払いとなった費用の支払や貸付金支払などです。

（8）資金支出調整勘定（4億4,052万円）は、年度間の調整項目です。

（9）次年度繰越支払資金（58億5,000万円）は、2015年度へ繰り越されるものです。

図表1　2014年度 資金収支決算内容（単位は百万円）

収入の部		支出の部	
科　目	金 額	科　目	金 額
（1）学生生徒等納付金収入	6,892	（1）人件費支出	3,991
（2）手数料収入	410	（2）教育研究経費支出	1,778
（3）寄付金収入	25	（3）管理経費支出	548
（4）補助金収入	418	（4）施設関係支出	430
（5）資産運用収入	202	（5）設備関係支出	466
（6）資産売却収入	2,500	（6）資産運用支出	3,861
（7）事業収入	28	（7）その他の支出	352
（8）雑収入	125	－	－
（9）前受金収入	1,862	－	－
(10) その他の収入	323	－	－
(11) 資金収入調整勘定	△1,800	（8）資金支出調整勘定	△441
(12) 前年度繰越支払資金	5,850	（9）次年度繰越支払資金	5,850
収入の部合計	16,835	支出の部合計	16,835

クイズ この数字は何？（ヒント：本学の2014年度に関わる数字です。）

①　1,919人　　②　427人　　③　364人

（答えは裏面）

（本紙記事の無断転載を禁ず）

■ 消費収支の内訳（※図表2以外、万円未満切り捨てで記載）

消費収支は、教育研究活動に帰属する収入と支出を表すものです（図表２）。

（１）帰属収入は、すべての収入のうち負債とならない収入のことで、教育研究活動の成果として獲得した収入を表します。合計額は83億4,043万円でした。なお、学生生徒等納付金、手数料、補助金、資産運用収入などの内訳は資金収支とほぼ同じですので、説明は省略します。

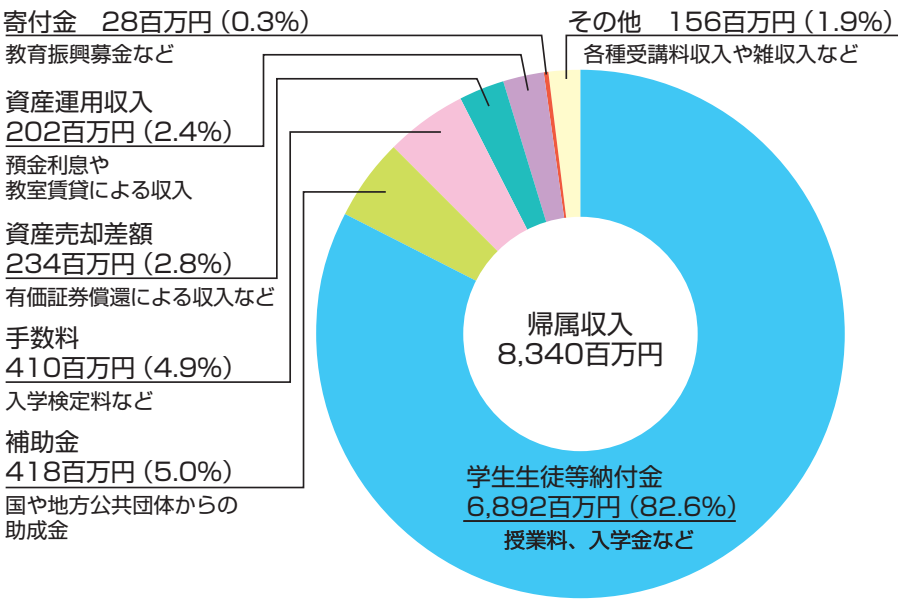
（２）基本金は、教育研究活動を安定的に維持するために必要な自己資金のことです。2014年度には、本学のキャンパス拡充や整備事業等の資金として新たに11億円、奨学金の基金として1億161万円を組み入れ、固定資産の取得とあわせ、組入額の合計は13億5,087万円となりました。

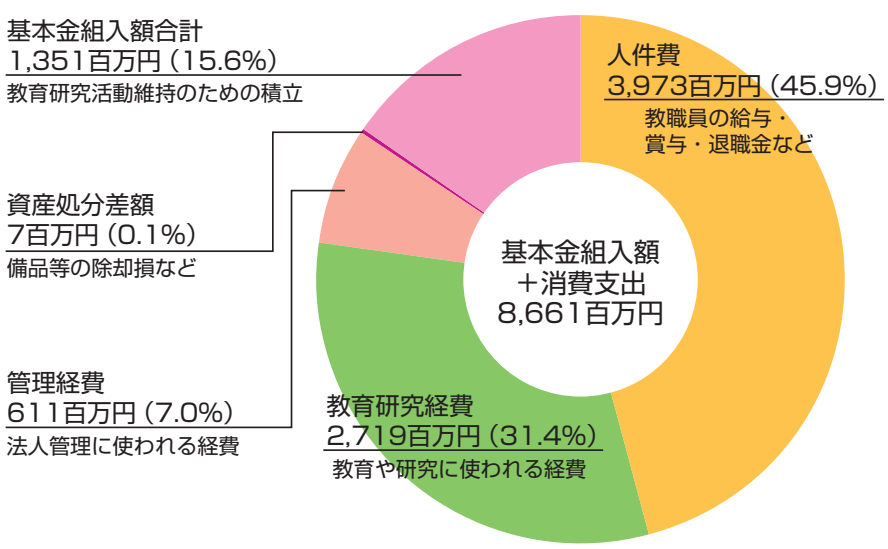
（３）消費収入は、帰属収入から基本金組入額を引いた額で、69億8,955万円でした。

（４）消費支出は、教育研究活動のために支出する資産の消費額や対価を表します。合計額は73億1,042万円でした。資金支出と比べて、人件費では退職給与引当金繰入額、教育研究経費と管理経費では減価償却額が含まれます。資産処分差額は、教育研究用システムリプレイスに伴う机等の除却損を計上しました。

（５）当年度消費支出超過額は、消費収入から消費支出を引いた額で、3億2,087万円でした。これに前年度繰越消費支出超過額を加え、翌年度繰越消費支出超過額は24億4,476万円となりました。

図表2　2014年度　消費収支決算内容





■ 貸借対照表の内訳（※図表3以外、万円未満切り捨てで記載）

貸借対照表は、2015年3月末現在のストックの状態を表します（図表３）。

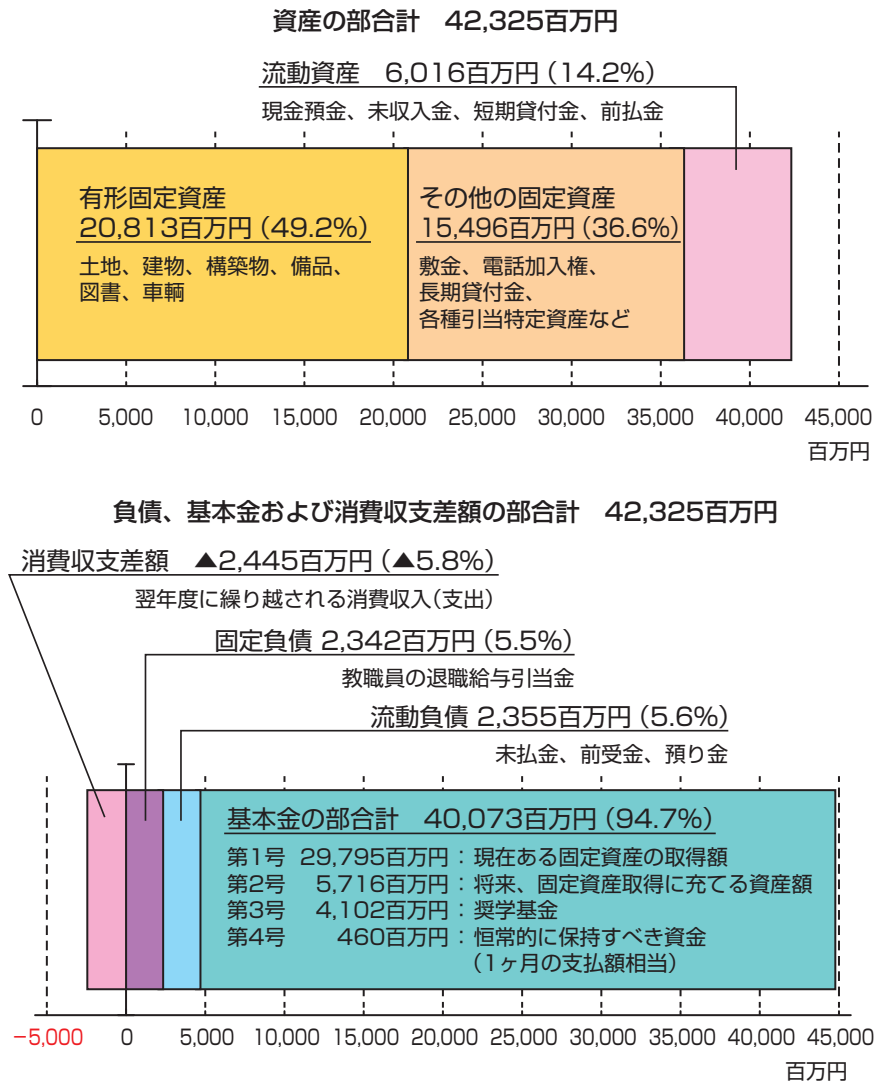
（１）資産の合計額は423億2,481万円。内訳は、①有形固定資産（土地・建物・備品・図書など）208億1,318万円、②その他の固定資産（施設設備拡充引当特定資産・第３号基本金引当特定資産など）154億9,565万円、③流動資産（現金預金など）60億1,597万円です。

（２）負債の合計額は46億9,659万円。内訳は、①固定負債（教職員の退職給与の積立金）23億4,205万円、②流動負債（未払金・前受金・預り金）23億5,454万円です。

（３）基本金の合計額は400億7,298万円。内訳は、①第1号基本金297億9,455万円、②第2号基本金57億1,587万円、③第3号基本金41億254万円、④第4号基本金4億6,000万円です。

（４）消費収支差額の合計額は▲24億4,476万円で、翌年度繰越消費支出超過額として2015年度に引き継がれます。

図表3　2014年度 貸借対照表決算内容



■ 主な財務比率など

本学の主な財務比率は次のとおりです（図表４）。

図表4　主な財務比率

項　目	本学 H26	全国平均 H25	判定基準	本学の評価	摘　要
人件費比率	47.6	52.4	▼	○	人件費の帰属収入に対する割合、50%以下が目標。
教育研究経費比率	32.6	31.5	△	○	教育研究経費の帰属収入に対する割合、30%以上が目標。
管理経費比率	7.3	8.8	▼	○	管理経費の帰属収入に対する割合、8%以下が目標
帰属収支差額比率	12.3	5.2	△	○	帰属収支差額※の帰属収入に対する割合、10～20%が目標。
学生生徒等納付金比率	82.6	72.4	～	～	学生生徒等納付金の帰属収入に対する割合。
基本金組入率	16.2	12.1	△	○	帰属収入の中からどれだけ基本金に組入れたかを示す比率。

※帰属収支差額 ＝ 帰属収入－消費支出
判定基準…△：高い値が良い、▼：低い値が良い、～：どちらともいえない
本学の評価…○：全国平均より評価が高い、×：全国平均より評価が低い、
～：どちらともいえない
（注）全国平均H25は、日本私立学校振興・共済事業団の「平成26年度版今日の私学財政大学・短期大学編」における財務比率表（医歯系法人を除く）から抜粋しています。

●本学は長期・短期ともに借入はなく「自己資金による経営」を続けています。
●格付投資情報センター（R＆I）による格付けでは、2014年11月13日に「A＋」（シングルAプラス）、方向性は「安定的」という評価を得ています。
格付け符号… AAA～Dの9段階で評価。上位格に近いものに＋（プラス）、下位格に近いものに－（マイナス）表示をつけることがある。
格付けの方向性…「ポジティブ」、「ネガティブ」、「安定的」および「方向性未定」がある。

クイズのこたえ（問題は表面）

① 2014年度のクラブ活動登録者数。本学では約4人に1人の学生がクラブ活動を行い、第26回全国大学弓道選抜大会女子総合優勝を果たした弓道部など、多くの学生が全国レベルで活躍しています。

② 2014年度夏期にインターンシップに送り出した学生数。3年生の約4人に1人が参加するなど、本学のインターンシップは全国でも有数の充実度を誇ります。

③ 2014年度に実施された日商簿記検定の合格者数。3級243名、2級117名、そして1級に4名が合格。ビジネスにおける基礎知識となる簿記を積極的に学んでいます。

事業報告書ならびに財務諸表（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録情報）は、ホームページ（URL：www.osaka-ue.ac.jp）に掲載しております。